

令和4年度第1回 大阪府河川及び港湾の底質浄化審議会
議事要旨

日時：令和4年10月17日(月) 10:00から12:00まで

場所：大阪府西大阪治水事務所 対面・Web会議形式併用

出席者：藤長委員（会長）・里深委員・西田委員（部会長）・西村委員・高浪委員（web参加）計5名

まとめ

【議題1】会長の選任について

- ・藤長委員が会長に選任された。

【議題2】平野川における薬剤等を活用した底質改善対策について

- ・平野川における薬剤による底質改善については、寝屋川流域底質改善対策検討部会からの報告を承認し、答申は事務局案のとおり適当である旨議決された。

【報告】AIを活用したスカムの解析について

- ・検討を進めるにあたっての意見が出された。

〔以下、○委員 ◎会長 △部会長、●事務局〕

概要

【議題】平野川における薬剤等を活用した底質改善対策について

（主な意見）

- 底泥は下水由来の有機物と上流から流入する無機物のどちらが多いのか。
- 平野川の底泥は、淀川や大和川に比べても強熱減量が非常に高く、有機物が多い状態である。すべてが下水由来とは言えないが、それなりの割合で含まれていると考えられる。
- 薬剤について、底質に対しての散布量の考え方はいかがか。また底泥の供給量の収支を踏まえた検討が今後必要になると思われるがいかがか。
- 今回の試験では薬剤の散布量や頻度はメーカーの推奨条件を基本とし、そこから散布量や頻度を変化させたパターンを設定した。特に散布量を増やす場合、X社の薬剤に水質環境基準の項目である硝酸性窒素が含まれていることや、浚渫との費用対効果も考慮する必要がある。
- ◎全硫化物では改善がみられるが、「薬剤に期待する底質改善効果」はどのように判断したのか。
- もともと平野川の底質は硫酸還元菌が少なく、全硫化物の改善による底質全体への影響は限定的であると判断した。有機物の嫌気分解によるメタンガス生成がスカム発生のトリガーになるという推測もあり、底泥中の有機物量の低下を期待したが、効果はみられなかった。
- △試行実施に使用した薬剤について、改善メカニズムからは全硫化物やORP、有機物指標の改善を見込んでいたが、試行実施の結果、全硫化物の改善が見られたのみで、他の項目に

ついでに改善は見られず、今回報告した判断に至った。

- 感潮河川などの特性があり、平野川では薬剤による底質改善は難しかったと理解した。
- ◎今までの質疑で、部会検討結果は審議会として適切であるとする。

【報告】 AI を活用したスカムの解析について

(主な意見)

- 底泥が目視可能なようなので、スカム発生が想定されるときに河床の動画も撮影してはどうか。
- 降雨などの発生に関わる条件も **AI** にインプットできれば、スカム発生要因の解明や発生予測につながるかもしれない。
- ◎底泥の化学性状分析なども引き続き進めてほしい
- 塩分濃度や水位なども今後の調査予定に加えると、新たな知見が得られるかもしれない。
- △様々な観点からの対策検討を期待したい。

一般傍聴からの発言受付

発言なし